

本学院の環境保全活動は、「立教学院 省エネルギー推進連絡会」において、以下の方針のもと、各取り組みを推進しています。ここでは、2017年度のCO₂排出量の概況、2017年度を中心とした取り組み事例、エネルギー使用量やCO₂排出量等の推移について報告いたします。

地球環境の保全については、行政や企業がそれぞれ目標を設定して対策を講じるだけではなく、私たち一人一人が日常的に小さな対策を意識し実践していくことが大切です。目標達成だけではなく、皆さまの環境保全に向けた意識がさらに向上するよう、今後も活動を進めて参りますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

立教学院 環境保全の 取り組み方針

1. 環境に配慮した施設・設備の導入
2. エネルギー使用量の削減
3. 廃棄物・資源のリサイクル率向上
4. 化学物質等の適正管理
5. 進捗確認や啓発活動等の推進

I. 2017年度のCO₂排出量の概況

(1) 本学院の削減目標と排出量結果

- ・第2期（2015年～2019年）の3年目
- ・基準排出量に対し東京都 17%、埼玉県 15%を削減した値が目標値として設定されている。

単位：t-CO₂

校地	第2期 年間目標排出量	2017年度結果	差異	対比
池袋	8,690	9,374	684	108%
新座	4,680	4,569	-111	98%
合計	13,370	13,943	573	104%

(2) 超過の要因

次章（Ⅱ. 2017年度までの取り組み事例）に示す、各校における環境に配慮した施設・設備の導入、エネルギー使用量の削減等の取り組みを行ったが、それを上回る以下の要因により、年間目標排出量に対し573t-CO₂、対比約4%の超過となった。

1) 天候不順の影響

7月の酷暑（平均気温約2℃上昇）、12～1月の酷寒（平均気温約1～2℃低下）により、当該時期の空調運転稼働率が増加した。

2) 空調温度設定見直しの継続

前年度より、教室・職場環境維持のため建物状況に応じた空調温度設定としており、前述の影響と合わせ、当該時期の空調運転稼働率が増加した。

II. 2017年度までの取り組み事例

(1) 環境に配慮した施設・設備の導入（全学院）

老朽化、古い形式、故障履歴等から更新順位を設定し、空調設備や照明器具等を高効率型へ更新した。また空調設備は代替フロン使用機器へ更新し、旧フロンは順次、回収している。



立教大学
池袋キャンパス
メーザーライブラリー
記念館新館
空調設備更新



立教大学
新座キャンパス
2号館
照明器具更新



立教新座中学校・
高等学校
外灯
照明器具更新



立教池袋中学校・
高等学校
センテニアルホール
空調設備更新

(2) エネルギー使用量の削減

1) 節電・節水・節ガスに向けた取り組み（全学院）

集中リモコンによるスケジュール・温度設定管理、現場巡回による使用していない教室などの照明・空調のスイッチオフ、またクールビズ、ウォームビズの実践、スイッチ周辺に節電・節水協力のステッカー貼付等の啓発活動を継続している。

2) 児童が作成した節水呼びかけポスターの掲示（立教小学校）



児童がオリジナルの節水ポスターを作成し、水場の各所に掲出した。水道使用量を毎月チェックし、前年度などと比較して利用が多い場合には、朝礼やホームルーム等において教員から児童へ「水の大切さ」などの話がなされた。

(3) 廃棄物・資源のリサイクル率向上

1) ゴミの分別方法などの変更（立教大学）



2017年9月からゴミ分別方法の変更、ゴミ箱設置数及び配置の見直しを実施した。その結果、「もやすゴミ」の量が昨年度同期間（9月～1月の計5ヶ月）より約18%減少し、池袋・新座両キャンパスの合計でリサイクル率が約8%向上した。

2) 学生によるゴミ分別状況調査（立教大学・池袋キャンパス）

大学におけるゴミ分別状況やリサイクル率向上に向けた取り組みについて、経済学部学生が調査を実施した。利用率の高いゴミ箱における適正な廃棄状況や分別率等を算出し、さらに適正な分別を促す啓発用のポスターを作成・掲出し、その効果を検証した。資源ゴミの推進には、ゴミや環境に対する利用者自身の意識と取り組みが重要であることが共有された。



3) 落葉の処分（立教大学・新座キャンパス）



秋～冬に発生する大量の落葉について、新座・富士見市及び近隣の農業協同組合のご協力のもと、複数の農家に無償で引き取っていただいた。これらの落葉は堆肥化（腐葉土）されリサイクルされている。この取り組みは次年度以降も継続していただく予定である。

(4) 化学物質等の適正管理

1) 化学物質など

教育・研究で使用する化学物質及び排水処理について、法規を厳守した基準・マニュアルに準拠し、年間を通じて適正に管理している。化学物質については、購入・使用・廃棄を一元管理する薬品管理システムを導入し、かつ定期的に棚卸を実施し、適正かつ厳正な管理を継続している。

2) ポリ塩化ビフェニル（PCB）汚染物

各校全てのPCB汚染物については、法規を厳守し、適正かつ厳正に管理している。2017年度までにこれらの内、低濃度PCB汚染物のすべてと高濃度PCB汚染物の一部の処理が完了した。この取り組み後、現在保有している高濃度PCB汚染物は、2019年度以降に順次、処理する予定である。

3) 吹き付けアスベストなど

使用されているアスベストなどのすべての箇所について封じ込め・囲い込み措置済みであり、現在飛散はない。また措置済みの箇所は定期的に目視点検及び粉塵濃度測定を実施し、飛散状況を確認している。今後も定期的な点検・測定を継続し、適宜、適切な対策などを講じる。

(5) 進捗確認や啓発活動等

- ・校内の自然を活用した授業（立教新座中学校・高等学校）



教室内の授業だけではなく、校内の100種類以上の樹木や、池を中心にした自然観察園を利用した授業を実施している。自然現象を実際に観察・体感し、理解することに重点をおき、樹木の種子・果実の調査、池に生息している動植物の観察等を授業カリキュラムとして展開している。

Ⅲ. CO₂ 排出量、エネルギー使用量・排出量等の推移

2013 年度の池袋キャンパスにおける特別高圧設備導入以降、電気使用量はほぼ一定となっている。ガス使用量は、2015 年度新座室内温水プール利用開始、2016 年度空調温度設定見直し、2017 年度池袋体育館コジェネ本格稼働等の影響により増加している。2015 年度の CO₂ 換算係数見直しにより CO₂ 排出量は、基準排出量と合わせ増加した。2017 年度は前述のとおり、天候の不順などにより空調稼働率が増加し、CO₂ 排出量が前年度比約 2% 程度増加した。



※ () 内の数値は各年度 CO₂ 目標排出量である。基準排出量に対し第 1 期 8%、第 2 期東京都 17%、埼玉県 15% を削減した値としている。



Ⅳ. 2018 年度の課題について

1. 各校において設定した更新順位に基づき、順次、高効率機器・器具へ更新する。
2. 学院全体として廃棄物の適正分別を継続する。特に大学では、廃棄物におけるリサイクルする紙類の分別方法を見直し、また現場巡回を実施し、適正分別の促進及びリサイクル率の向上を図る。
3. そのほか、空調温度設定管理、ステッカー貼付によるエネルギー削減の啓発、化学物質などの適正管理等、現状の各取り組みを学院全体が継続する。